



福島県葛尾村 地域振興課
北村 公一 さん

年齢: 55歳
出身地: 愛知県

● 経歴 ●

- 昭和60年 地方公共団体で勤務
- 昭和63年 青年海外協力隊としてシリアに派遣
- 平成9年 民間企業へ入社
- 平成29年 復興庁市町村応援職員として葛尾村に駐在

※復興庁スキーム

震災から約半年後に参加した被災地でのボランティア活動をきっかけに、被災地でやるべきことはいくらでもあると思い、復興庁市町村応援職員に応募。

大学卒業後、地方公務員をしていましたが、3年で退職し、青年海外協力隊に参加しました。派遣国はシリアで、職種は家畜飼育、国営の酪農農場に勤務しました。帰国後、シニア隊員の選考に合格し、再びシリアで国営の酪農農場を束ねる組織に勤務しました。

昨年4月、役員を務めていた企業を退職することになり、以前JICAのHPで見た復興庁市町村応援職員に応募しました。

子育てが一段落したら再びJICA関連の仕事に戻るのだろうかあとぼんやりと考えていました。震災から約半年後、ボランティアバスツアーで岩手県大船渡市に行き、がれき処理のボランティアをした時に、現地がまさに手つかず状態だったのを見て、途上国もそうだけれどここも助けが必要だ、やるべきことはいくらでもあると思いました。それが被災地で働こうと思ったきっかけです。

畜産関係を中心に農業関係の業務に従事。これまでの農業経験が活かせる場面も。

畜産関係を中心に、農業関係の業務に従事しています。主に担当しているのは、補助事業を活用して農業を再開しようとする人たちの申請手続きの支援です。葛尾村は、平成28年6月まで全村避難をしていました。6年間そのままになっていた牛舎をきれいにして、避難先から戻ってくる、できればそのタイミングで必要な機械が入手できていればベストです。今後は、個人農家向けのみならず、農業法人等を対象にした補助事業にも力を入れていきたいと考えています。

前職は農業と関係がなかったため、20年以上現場から離れていました。最先端技術についてはわからないことも多いですが、例えば、牛をトラックから降ろす際、牛がいうことを聞かずに苦勞していれば、自分が牛を引っ張り動作を補助してあげることができるのです。牛が指示通り動いた瞬間に、「お、こいつは何者だ」となり、畜産農家の方と一気に距離が縮まるのを感じます。

これから被災地で働く方へメッセージ

被災地のために何かしたいと思っている人は、協力隊OBIに限らず、大勢いると思います。ただ、そのような気持ちを持っていても、何をどうしたらいいかわからない人もいるでしょう。復興庁には市町村応援職員という制度があるので、気持ちがある人はどうぞ応募してください。

海外で体験するような「何もかもが違う」という面白さはないかもしれませんが、協力隊OBIにとって被災地で働くことは決して大変なことではないと思います。